レッスン:SPA　NO.82

テーマ：二元性/エゴ

SPA 82 KE2001?N1 11/10/00

私の姉妹・兄弟達、スピリット、光、火の子供達よ。私達は常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

以前のレッスンでは生命の木の様々な部分、創造界の細胞をある程度まで分析しました。そして説明したように、一番上の大きな三角形はアウタルキーのなかにある絶対存在を示しています。

次は創造と現れのために神が黙想しているステートを示す長方形です。それはいかなる意味をも越えたステートで、それは実際に起きているものです。創造の諸世界において現れとして存在している限り、いかなる現れもそこにアプローチすることは不可能です。

次は２番目の長方形で、元型（複数）、イデア（複数）、法則（複数）、原因（複数）の諸世界を意味するステートを意味します。ここには創造された全てのものが従うべき全ての法則の現れがあります。ここでは「現れ」と「創造物」が後に「存在するようになる」ところです。ここには生それ自体の４つのヘブンがあります。生の現れ、表現はここでは完全です；つまり現れ、表現のいかなる制限もありません。

次は生命の木の一番下の部分で、それは一番上と同形の三角形です。これは実存の諸世界を意味します。ここでは「現れ」と「創造物」の為に手段が必要となり、創造物のために手段が使用されます。同時にそれはまた「生」が制限のなかで「自身」を表現するための手段として使用されます。そしてその手段とは、「マインド」の様々は異なったバイブレーションです。

勿論、イデア、元型としてのマインドは「生それ自身の諸世界」、それら４つのヘブンにもあります。そして、そこから「イデアとしてのマインド」、スーパーサブスタンスのスパーク、そしてその他全てのバイブレーションがあります。勿論、それらはイデア、そして可能性（能力）としてのスーパーサブスタンスのなかにあり、ニーズがある時に表現されるのです。そして勿論、今や実存の諸世界にはニーズがあり、まず最初にスーパーサブスタンスが入り、そしてヒポスタシス（状態）を取り、それに続いてサブスタンス、超物質、物質があります。物質はマインドのバイブレーションの一番低次のフォームです。

さて、それら全てのマインドのバイブレーションは生を表現し、現すために必要となります。しかし、生の現れによって使用されると言うとき、はっきり理解する必要があります。スパークはそこにあります。なぜなら、何であれ現されるためには、生によって活性化される必要があります。しかし「残念ながら」（残念ながら、と述べた理由は後ほど説明しましょう）、何であれ現されるものは生の特質を完全には現していません。そして生の現象という現れがあります。そして今や現在のパーソナリティーの現れがあります。そして前に述べたように、

**現在のパーソナリティーは生それ自身によって活性化されます。そして生それ自身はそれ自身を現しません。それは生の現象が手段を使おうとするときに現されますが、しかし無知のなかにおいては、生命の木、あるいは天上人を示すものと同一ではありません。**

**しかし、その手段が同一になるとき、生の現象は実際にスパーク（前に現象を活性化させたもの）と一つになります。そして自己実現した現在のパーソナリティーが生じます。**

言い換えれば、現象は全ての人間のなかにある生のスパークと一つになるのです。現在のパーソナリティーが何か他のものを現すようになるのではありません。

**スパークはどのような進化・成長の段階にあっても全ての人の内側にあります。**そして現在のパーソナリティーが無知のステートにいる間は、使用される手段（それはマインドの様々なバイブレーションから出来ている）は創造の分子とシェイプにおいて同一になっていません。

Page2

現在のパーソナリティーが場所と時間の意味の中にいる間、それらの手段（それは現在のパーソナリティーの諸体、つまりノエティカルおよびサイキカル体に他なりませんが）は徐々にゆっくりと創造の分子のシェイプを取るようになります。

私は先ほど「残念ながら」と言いましたが、その理由は神の聖なる仕事は選ばれた方法でしか達成されないからです；モナドセルフがそのモナドのrealization（＊実現、認識）を現し、そしてモナドセルフを全てがある多重性のステートから分離するには、それ以外の方法はありません。

ですから、様々な無知のステートすべてが必要なのであり、私たちはこれら全ての無知のステート（＊レベル、状態）を過小評価すべきではありません。なぜなら、何であれすべてが生じる背後には、聖なる理由、原因があるからです。

多くのレッスンで述べたように、創造の諸世界には生それ自身として、そして人間のイデアとして現れがある時、魂のセルフ・エピグノシスとしての現れがあります；そしてまさにその瞬間から、**魂は素質的可能性のサイクルを経験していくのです。魂の素質的可能性のサイクルがあり、そのサイクルのなかにさらに他の小さな全てのサイクルがあるのです。**そうです、元型、イデアとして、そしてこのサイクルのなかには現在のパーソナリティーの素質的可能性のサイクルがありますが、それは人間のイデアの結果である魂の素質的可能性のサイクルに含まれていない、ということではありません。

現在のパーソナリティーの素質的可能性のサイクルのなかには５つの小さなサイクルがあると言いましたね。一番低いポジションから上に上昇しますが、最初のサイクルがあり、それは現在のパーソナリティーがより高い現れのステートに到達する助けとなります。現在のパーソナリティーがこのサイクルにいる間、現在のパーソナリティーはいわゆる本能的意識のセルフ・エピグノシスを現しています。その現在のパーソナリティーは最初は二元性を全く現していません；最初は意味がありません。思考・行動の仕方としてのその現在のパーソナリティーの現れを構成するそれらの部分はワンネスのステートにあります。私たちはそれについて述べ、それを２つの小さなエゴ(ego)があると分析しました。

多くのシステム（＊組織、グループ）では小文字のエゴが１つ、そして大文字のエゴが１つある、と考えています。大文字のエゴがそれら２つのエゴを活性化し、実際にそれらを活性化することによって、徐々に他の部分と分離していき、その結果二元性が現れるのです。このステートでは現在のパーソナリティーは二元性を現していません、つまり思考というフォームを全く現していません。しかし、徐々になんらかの考え、そして何か瞑想のステート、何らかのステートを現すようになります。現在のパーソナリティーが前進するにつれて、考えがより多く現されるようになり、そして多くの転生の後、その現在のパーソナリティーは次の素質的可能性のサイクルに入るのです。

さて、さらに多くの転生の後、その現在のパーソナリティーはより高いレベルの瞑想、より高いレベルの思考を現すようになります。現在のパーソナリティーが時間・空間の意味のなかで進むにつれて、エゴとしての２つの部分はさらに分離していき、２つの間の距離はより大きくなり、そして勿論、私たちはより高次のレベル、つまり生それ自身をもっと現すことに引っ張られていきます。**それは生それ自身、現在のパーソナリティーを活性化するスパークによって行われます。**そして勿論、**そのスパークは現在のパーソナリティーのそのエゴの部分（他のエゴの部分から分離していった）**に根ざしています。

この２番目の素質的可能性のサイクルでは何が起きるでしょうか？距離はさらに広がるでしょうか？答えはノーです。距離には限界があり、限界に達すると何が生じるでしょうか？…２番目の部分がより高い気づきの表現に向かって進んでいく時に。もう一つの部分も従っていきます。そして、それが生じ始める時、**両方の小さなエゴは消えていきます。**それらは異なった色を帯び、その密度はどんどん低くなっていきます。なぜでしょうか？なぜなら、今や生それ自身からもっと多く表現されるからです。勿論、これは２番目の素質的可能性の終わり頃に起きることで、始まりの頃に起きるのではありません。

Page3

この２番目のサイクルにおいて、現在のパーソナリティーはいわゆる潜在意識的意識のセルフ・エピグノシスを現し始めます。このサイクルにおいて、現在のパーソナリティーは自分の現れが成長・発展することを願い始めます。

さて、その動機、意図はパーソナリティーによって異なります。このサイクルのなかで現在のパーソナリティーはまだ地のエレメント、地面の中にいて、このエレメントによって囲まれています。説明したように、現在のパーソナリティーは墓のなかにいます。実際、本当の死とはこの状態なのです…つまり現在のパーソナリティーがこれらの現れのステート、つまり１番目および２番目のサイクルにいる時です。行うべき努力とはこの２番目のサイクルの境界から去ることです。それは境界、限界です。なぜなら、このサイクルのなかでそれらの限界は現在のパーソナリティーに多くのニーズ、ニーズというイリュージョンを与えるからです。

**現在のパーソナリティーはふつう自分自身が抱くイメージに魅せられています**。

なぜなら、何にフォーカスしようとも、それは地のエレメントにフォーカスしているからです。しかし、そのエレメントが存在するためには水のエレメントによって活性化される必要があり、自動的にそれは鏡のようになります。

**そしてどの方向にあなたがフォーカスしようとも、あなたが見るのはあなた自身であり、それを喜ばせたいのです。**

勿論、このサイクルはそれを使用してサイクルをマスターしてそのサイクルから向け出て、次のサイクルに入ることができるようにたくさんの助けを与えています。**その時にはこのエレメントに囲まれてはおらず、その上に立っています。そしてその瞬間から、現在のパーソナリティーはいわゆる意識的意識のセルフ・エピグノシスを使い始めます。**私がそのような意識を使い始めると言うとき、実際にそうなのです。しかし、「しかし」が付きます。現在のパーソナリティーは直ちに何が上向きで何が下向きかについて意識的になるわけではありません。なぜなら、３番目のサイクルで起きることだからです。現在のパーソナリティーは引き続き現れの制限のなかで自分を現すことでしょう。

**たくさんのエゴが表現され、勿論そのエゴとはその現在のパーソナリティーが現す知識と似通っています。そして前のレッスンでも述べたように、その知識はより高いものとなります。**

**ですからもし知識がより高いものとなれば、エゴもまた最初はもっと明らかなものとなります。「生」がより多く表現されるようになるにつれ、勿論徐々にゆっくりと現在のパーソナリティーはパワーと能力を現すようになります。**

**しかしエゴはまだそこにあるのです。現在のパーソナリティーがこのサイクル（＊３番目のサイクル）をマスターするとき、**

**現在のパーソナリティーは次（＊４番目のサイクル）に入り、それらのパワーと能力を使ってエゴの様々な側面を除去します。**

**勿論、それはまたロゴスご自身によって行われる火の洗礼の結果でもあります。**

**そして火の洗礼が始まる時、現在のパーソナリティーは超意識的意識のセルフ・エピグノシスを使い始め、真の感覚を完全に使い始めます。**

**現在のパーソナリティーがこのサイクルをマスターするとき、現在のパーソナリティーはもはや二元性を必要としません。なぜなら、小さなエゴは大文字のエゴ(Ego)のなかに完全に入るからです。**

**大文字のエゴ(Ego)とは生の現象を活性化してきたスパークであり、今はもはや生の現象ではなくなります。**

**そしてこの瞬間から、二元性が表現されないこの瞬間から、自動的にもう一つのサイクルが加わります。それは「生」のなかの質であり、その時現在のパーソナリティーは同調(attunement)という質を現すようになります。**

現在のパーソナリティーはもはやどんなニーズを現すこともなく、そして勿論手段を必要としません。現れのための手段です。彼または彼女とは言いません。**なぜなら、この瞬間に現在のパーソナリティーは性別を超えてしまうからです。**そして、

**手段ですが、**

**このステートにいる間、現在のパーソナリティーはスーパーサブスタンスのバイブレーションとなっており、それは現在のパーソナリティーの自己実現のステートです。**

Page4

私たちは皆このステートに到達することを求めるべきです；

**①これは現在のパーソナリティーの究極の「達成」です。**

**現在のパーソナリティーが表現するこれより高いレベルはありません。**

**②これより上は魂のセルフ・エピグノシスとの融合、同化です。そして一度魂と同化したなら、元に戻ることはありません。**

**③その魂はそれ以降テオーシス（＊神との再合一）に向かって進みます。**

従って、いかなる現在のパーソナリティーであろうとも存在の諸世界、生それ自身の諸世界に入って、再び現在のパーソナリティーとして戻ってくることはありません。これは法則であり、自己実現した現在のパーソナリティーがどれだけ多く生から現しているかということではありません。

ですから現在のパーソナリティーの部屋のなかで、２番目のサイクルにおいて様々な助けがあります。そうです、現在のパーソナリティーはより高い気づきを現すために、それらの助けを使う必要があります。そしてもし現在のパーソナリティーがこのサイクルをマスターする時、現在のパーソナリティーは小さな四面ピラミッドという助けをマスターしていることでしょう。このピラミッドをマスターするということは、その頂点を完成させてそこに立つ、つまり意識としてその最も高いポジションに立つことを意味します。そうすることによって、現在のパーソナリティーは地のエレメントのなかにあって、部屋の外に出ています。しかし、いかなる手段の境界にも囲まれていません。それらの境界は現れを制限するのみならず、同時にそれは現在のパーソナリティーを守ってきた境界なのです。

それがなくなって、今や何が守るのでしょうか？

その現在のパーソナリティーは今や地のエレメント、地面のエレメントにあるもの全てに向き合うことができます。ですから、守るためにそれらの境界はもはや必要なくなったのです。そして徐々に現在のパーソナリティーは部屋から「移動して」遠ざかっていきます。そして後には地上に立つのです。

これらの助けとして沢山の知識が提供されています。そして総体的に創造界それ自体、全体的宇宙論としての知識。

質問は、現在のパーソナリティーが素質的可能性の２番目のサイクルのなかで何であれ達成できるものを達成するために何が必要であるか、というものです。現在のパーソナリティーは非常に真剣に実践的ワークをする必要があり、その意味はエクササイズ、これら様々な助けを使用するエクササイズです；小さな四面ピラミッド、三面ピラミッド、五面ピラミッド、そして最後に一面ピラミッドです。私たちはそれら全ての手段を、法則それ自体が提供してくれている助けとして使用する必要があります。

これらの手段を正しく使用するために、現在のパーソナリティーは様々なエーテルの特質を使用する高い能力に到達する必要があります。もしあなた方がこれまでに提供した様々なエーテルの特質をマスターするエクササイズを全て実践したなら、様々なタイプのピラミッド、その他のエクササイズはずっと簡単になっていることでしょう。なぜならたくさんの視覚化、たくさんの集中（何か他のものに集中が移ることなく）が必要だからです。

ですから、あなた方はたくさんのエクササイズを行うべきです。もし高い気づきのレベルを得たければ、それはそれらのエクササイズを通じて得られるのです。他の方法はハイアーセルフを現すための最も遅い方法であり、それは毎日の生活経験によるものです。

そうです、誰もが多くの転生を通じてゆっくりと進んでいきます。しかし真理の探究者として私たちはより高いレベルに向かってより速いスピードで進む進化・成長を求めるべきです。そのためには不定形の諸体の再形成に向けて、もっと真剣に、意識して進むべきです…その結果、生からより多くのものを現すことができるように。そしてそれが起きると、私たちは同胞の人間に対して、そして自分自身に対してももっともっと役立つようになるのです。

ですから、**エゴ、それは現在のパーソナリティーを意味しますが、エゴはそれら２つの部分にあります。小文字のエゴ(ego)です。そしてそれら２つのegoの結果として、二元性の現れがあります。初めは１つとして、二元性がありません。しかし二元性というものがやってきます。初めは「生」(Life)としてスタートします。「Life」としての１つのモナドセルフです。魂のセルフ・エピグノシスです。この二元性は能力として「生」のなかにあります。なぜなら、もしそれがなければ、この二元性は現れることはないからです。二元性がある時、同時にエゴイズムがあります。二元性の現れがなければ、エゴもありません。動物にエゴがあると思いますか？ありません、動物には二元性がありません。*二元性が現れる時、エゴイズムが存在するのです。私たちがもはや二元性を現さない時、エゴイズムも消えます。***

Page5

何か質問がありますか？

Ｑ：この強いエゴ、３番目のサイクルにおけるこの知識あるエゴ、それを現す必要のある程度について訝っています；なぜならエゴを現す必要があるのですか？

Ｋ：そのエゴ、前のレッスンで非常に高いエゴについて述べましたね。それは２番目のサイクルでスタートし、そして継続、継続、継続します。特に３番目のサイクルの初めには。

パーソナリティーが能力なしに知識を現せば現すほど…この場合の能力とはテクニカルな手段による結果としての能力ではなく、サイコノエティカルな上昇の結果としての能力を意味しますが…**知識があればあるほどエゴも増します。**そしてこれは多くの転生において生じます。最初は勿論この３番目のサイクルにおいて。しかし、

このエゴは２番目のサイクルにおいてモンスター（怪物）のようにスタートします。特に現在のパーソナリティーが本を多く読み、たくさんの知識を受ける、そして現在のパーソナリティーが自分の現れのレベルを認識していない時に。

この大きなエゴはそれ自身を現し始めます…徐々に惹きつける魅力として、そして二元性の１つの部分における問いかけとして。それは他と分離した小さなエゴの一つであり、それは最初は罪悪感として表現されます…現在のパーソナリティーを助けるために、何であれ正しくないことを行うのを避けるために。そして現在のパーソナリティーを低いバイブレーションのなかに留めます。しかし、前に説明したように、私たちはこの罪悪感がエゴの他の部分との闘いを生み出すのを望みません。２つの小さなエゴの間の闘いを欲していません。必要なのは推論（＊reasoning議論の道筋）による忍耐と導きです。

Ｑ：しかし、あなたはそれは怪物（モンスター）だと言います。それは悪いものですか？

Ｋ：はい、勿論エゴは悪いものです。実際、現在のパーソナリティーに経験を与えるのはエゴイズムです。私たちが悪いと言う時、私たちはそれを除去する必要があります…その結果無知から解放されるために。それは必要なのかどうかと言えば、答えはイエスです（＊必要という意味）。もし必要ないなら、それが現されることはなかったでしょう。

Ｑ：それでは私たちはそれを有する必要があり、それは強いものでなければならないのですか？

Ｋ：現在のパーソナリティーが通過する必要のある様々な段階があります。そのようにして現在のパーソナリティーは無知の領域から自由になっていくのです。詳細はパーソナリティーによって異なりますが、現在のパーソナリティーが通過しなければならない全体的ないくつかのレベルがあります。他の人と比べてある人がどれだけ速く通過していくかは別問題ですが。

Ｑ：あなたは２つの小文字のエゴがあり、それらは分離していますが、その分離の程度は様々だと言いましたね。２番目のエゴが従い、引かれるのは何が原因なのですか？

Ｋ：法則です。これは素質的可能性の２番目のサイクルでスタートし、勿論３番目のサイクルでも続き、そしてまた４番目のサイクルでも同じです。

Ｑ：しかし、その動きを引き起こす何か特別なものがあるのですか？

Ｋ：動き？それは１番目をマスターして２番目に入り、そして素質的可能性の他の助けをどの程度マスターしているかです。助けと言いましたが、その意味は実際に四面ピラミッドをどのレベルまでマスターしているかです。なぜなら、他の助け（三面ピラミッド、五面ピラミッド、そして一面ピラミッドなど）と共に実習することによって。つまり、前のレッスンでも述べたように、実際に四面ピラミッドをマスターするということです。現在のパーソナリティーはどのレベルまで小さな四面ピラミッドをマスターしているでしょうか？

私たちは四面ピラミッドの完全な状態のポジションに自分が到達する（それは頂上が完成し、部屋の外にいることを意味しますが）まで、様々なレベルを上昇していきます。同じ事は大きな四面ピラミッドの中に立っている４番目のサイクルのマスターについても言えます。それゆえに、四面ピラミッドのあらゆる遺跡には頂上がないのです；頂上は常に平らになっています。それらはパーソナリティー達が肉体でその頂上に立って、パワーと能力を現すために築かれたのです…しかしその能力はサイコノエティカルな上昇の結果ではありません。

Page6

**勿論、探究者、真剣な探究者が四面ピラミッドの上に立つこと、それは四面ピラミッドをマスターし、同時に現在のパーソナリティーはもはや二元性を現すことがなく、マインドの様々なバイブレーションをマスターし、同時に物質化、非物資化をマスターしたことを意味します；そして現在のパーソナリティーは同調(attunement)を使い、もはや五感を必要としません。**

**二元性を現すことがないと、感覚は必要ありません。感覚は二元性のためにのみ必要となるのです。感覚は現在のパーソナリティーに何を提供するでしょうか？勿論、意味です。**

**自己実現に達すると二元性は現されず、サイキカル体を持つことはなくなります。サイキカル体は行動の仕方、感情表現の仕方を示します。ノエティカル体も持ちません。ノエティカル体は思考の根源です。ですから、自己実現した現在のパーソナリティーはもはや考えることをしません。何をするのでしょうか？言葉による意味でそれを分析するのは簡単でしょうか？答えはノーです。それはそれ自体に同調します。**

**同調とは何でしょうか？同調(attunement)とは、もし同調を現し続けるとしたらそれは黙想であり、もはや瞑想ではない、そのようなステートです。なぜなら、もし現在のパーソナリティーがそのステートに留まると、スパークと一つになるからです。しかし、もし現在のパーソナリティーがそのステートに留まると、それは同時に体は完全に創造の元型と完全に一致し、また天上人の体と同じになり、肉体はもはや現世のバイブレーション、この世界のものではなくなります。現在のパーソナリティーがそのような現れのステートに留まるためには、神的原因が必要です。聖なる神の仕事が達成されねばなりません。そして聖なる神の仕事は、その惑星全体が自己実現したそのような惑星上でのみ現されます。そして自己実現とは何を意味するか説明しましたね。その惑星の全ての人類が自己実現に到達するのです。なぜなら、惑星上の人間と惑星それ自体を切り離すことはできないからです。その惑星はそれにつながる全ての人間のためのものです。そして自己実現した惑星と言うとき、それは全人類が自己実現していることを意味し、その時その惑星のもう一つの役目がスタートします。その惑星上の自己実現した全ての人間にとって、この惑星はいつか自己実現に到達するでしょう。**

Ｑ：疑いはエゴイズムの結果ですか？

Ｋ：勿論です。

Ｑ：それは全ての人が通過するべきステートですか？

Ｋ：勿論です。無知のステートにいる間に人間が現す全て、それらはエゴの様々なステートから来るのです。疑い、質問、羨み、認識、それらは全てエゴの様々なステートです。

Ｑ：それは小文字のエゴ(ego)ですか？

Ｋ：エゴイズムはエゴイズムです。それは大文字(Ego)か小文字(ego)かの問題ではありません。エゴイズムはこのレッスンで述べたように、二元性と関係しています。二元性のあるところ、現れとしての二元性があり、するとそこにはエゴイズムがあります。勿論、二元性のステートに応じて様々なレベルがありますが。ですからエゴイズムは完全に二元性と関係しています。エゴイズムなしに二元性を有することはできません。二元性とは素質としての能力ですが、しかし二元性が表現されないことがある、というものではありません。現れとしての二元性は「生の現象」のためのものであり、それによって聖なる神の仕事が達成されるのです。そして、勿論エゴにはその様々な側面がありますが。私たちは時々、その人はどれぐらい謙虚であるか、と言いますね。謙虚？そこにはエゴはないと思いますか？エゴは現されないのでしょうか？どう思いますか？その人にはエゴの現れがない、と思いますか？エゴはそこにあります。そして必要なのは小さなスパークです、それによって、それが表面に浮上するのです。

あなたが自己実現した現在のパーソナリティーであるとして、あなたが自分のバイブレーションを下げる時、二元性を使うことでしょう。そして二元性を使うと言うとき、ノエティカル体とサイキカル体を使い始め、そしてこの身体を使うことによって自動的に二元性が現れます。自動的にです。なぜなら、思考、考えが現れるからです。そのパーソナリティーが瞑想を始めるとします。自動的にエゴイズムが現れます；異なった思考であり、現在のパーソナリティーはそれに魅惑されることはなく、価値は異なっていますが。

そのような現在のパーソナリティーはそれによって影響されることはありません。現在のパーソナリティーは考えることを続けません。その現在のパーソナリティーは瞬間に生きており、その人の現れは瞬間なのです。そして勿論、その現れは時には他人の本当のエゴを悪化させることもあります。しかし、残念ながらそれを避けることはできません。この意味がわかりますか？その人は高いレベルに到達した人です。いいですか、その人はあらゆる状況において、あらゆる現れにおいて、あらゆる現れのバイブレーションにおいて優秀な役者を演じることはできません。それは非常に優れた俳優に下手な演技をして、失敗するように頼むのと似ています。

Ｑ：それでは、一つのエゴは他のエゴとどのように違うのですか？両方ともエゴイズムが表現されるのですが。あなたが言ったことは理解できるのですが。他のパーソナリティーは表現されたエゴに執着しないのです。人が無知にいる間は、エゴというよりも表現なのですね。

Ｋ：現在のパーソナリティーが影響されるのは現れだけではありません。マスターしていない間は、**現在のパーソナリティーは自分自身のエゴに影響されます。それは思考・行動の仕方としてのその人のセルフなのです。**

Ｑ：それでは自己実現したパーソナリティーはその場合、演じているのですか？

Ｋ：ノー。演じていません。説明したように、その人は実際、演じているのではありません。演じるということは、いつも「ノーマル」であると解釈されるとは限りません。それ故に、時には人々を怒らせるのです。

Ｑ：しかし、そのパーソナリティーは他の人の問題を真に理解せず、何が原因なのかに気づいていない、ということもあり得ると思います。

Ｋ：そのような状態を言っているのではありません。そのパーソナリティーは完全に気づいているが、その時、他のパーソナリティーによって期待されていることを表現するために演じることはできないのです。しかし、一般的にそれらは価値観であり、一般に自分自身のイメージに魅惑されている、と述べましたね。

EREVNA/SPA82/KE2001/N/11/0